

第28回MQI発表大会

2023年度MQI統一主題
活気ある次世代を担う病院への改革
 ～理念実現のための職場作り～

みみより
 MQI

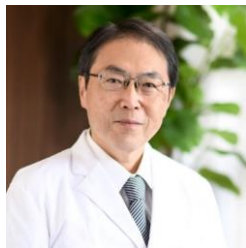
発行(公財)練馬総合病院MQI推進委員会
 〒176-8530 練馬区旭丘1-24-1
 TEL03-5988-2200(代)

会場参加者 145人 (院内139人、院外6人)
 ZOOM参加者 56人 (院内38人、院外18人)

ご参加いただき、ありがとうございました！！

第28回MQI活動発表大会を終えて

理事長・院長 柳川 達生



第28回発表大会は、令和5年12月2日に地下講堂とWebとのハイブリッド方式で開催しました。多くの方々にご参加いただき、感謝申し上げます。今回の統一主題は『活気ある次世代を担う病院への改革～理念実現のための職場作り～』でした。本年度MQIで取り組まれた活動は、それぞれ成果があったと思いますが、これから伸ばして統一主題に到達するようお願いいたします。第29回大会では、今回の活動をさらに発展させるようにしていきます。

第28回MQI活動発表大会に関する総論的感想

株式会社 榎コンサルタントオフィス 代表取締役 榎 孝悦 様



第28回の統一主題は、「活気ある次世代を担う病院への改革～理念実現のための職場作り～」でした。学ぶ姿勢や順序、成長する過程や流れを示した「守破離」という言葉があります。段階的に進化していくこと、基本に忠実であることの大切さを表していますが、第26回「おさめる～基本を遵守した医療～」は、学んだ内容をきちんとできるようになる基本的な段階の「守」、第27回「価値観の転換～守ものと、変えるもの～」は、学んだ内容を完璧にできるようになった上で創意工夫する応用的な段階の「破」、そして、第28回は今まで学んだことを踏まえて自分独自の理論を見出す発展的な段階の「離」に入ったと捉えて、審査に臨みました。

今回の発表も、甲乙つけがたい内容を伴ったものであり、各チームの発表までの真摯に取り組まれる姿が目に見え、同時に発表内容については、「改革」というより効果的な「改善」の域を出なかったようにも思われ、若干の物足りなさも感じたのが正直な感想です。

昨今、医療現場への変化圧力は今までに強く、多岐にわたる様相を帯びています。次世代を担う医療の進化や技術革新、患者の多様な要望などに加え、医療保険制度の変化に対応するため、将来的な練馬総合病院の在り方についても世代交代を含めた変革を踏まえての一層の議論が必要になります。

30年近くの伝統を持つMQI活動は、練馬総合病院が未来に向けてより効果的かつ持続可能な形で進化していく重要な役割を担っていると信じています。総じて、素晴らしい発表であったことをお伝えしつつ、次回への更なる充実した活動を期待しています。

特別講演「専門家の『主観』の力が、医療の質を守る」

有限会社ノコード 代表取締役 平林慶史先生



医療の質を高めるために何が重要か。専門家の主観を育て、効果的な対話を行うことが重要であると強調されました。医療の質を定量的に評価することの難しさを指摘し、様々な指標や尺度を用いることとの重要性とその限界を説明しました。主観的に「良くなった気がする」「良くなったね」といい合える活動もすごい価値があると訴え、医療現場での経験や直観が重要であり、専門家としての内面的な判断力を信じ、それを通じて質の高い医療を提供することを提案しました。

主観の偏りを補うために対話が重要であり、異なる視点を持つ人々と意見を交換することで、バランスの取れた意思決定ができると述べました。最後に医療の質の向上において、日々の小さな改善活動の価値を認識し、それらを積み重ねることで、組織全体の質を高めることができると述べ、専門家としての誇りと喜びを持ち続けることを呼びかけました。

文責：渡邊輝子・植村里美

各賞受賞チーム



特別賞【無痛分娩プロジェクト】

最優秀賞【薬剤科】

優秀賞【放射線科】

参加チームからひとこと

	活動主体部署	看護部
	テーマ	夜間、震度 5 以上の地震発生時、職員が安全に初期対応を行うことが出来る
	チームリーダー	大橋 周治
<p>首都直下型地震はいつ何時起きてもおかしくない状況です。本活動により、多くの職員が防災について意識することができたと思います。私たちの活動は始まりであり、今後継続することが防災意識を風化させないために重要だと考えます。今後防災委員会と協力し活動を継続したいと思います。</p>		
	活動主体部署	放射線科
	テーマ	画像データ出力の運用を見直す
	チームリーダー	橋本 彩
<p>今回の活動により今までの画像出力の際にかかっていた手間が軽減され、医師をはじめ関係部署の方たちに良くなった、画像出力が早くなり患者を待たせる時間が短くなったという声をいただきました。今後も継続して運用していきますのでご協力をお願い致します。</p>		
	活動主体部署	薬剤科
	テーマ	多職種で関わるFLSの体制を整える
	チームリーダー	中原 佐和子
<p>MQIの活動を通してFLSの体制を整備できたことに感謝しております。今後も骨粗鬆症の治療率、継続率を維持し、今回の活動を契機によりFLSを発展させてFLSチームで二次骨折予防に努めます。引き続きFLSチームへのご協力をよろしくお願い致します。</p>		
	活動主体部署	医事課
	テーマ	受付業務を整理し、初診患者を速やかに診療科へ案内する
	チームリーダー	關山 恵理
<p>今回の活動で、電話中断の削減と、問診票の記入漏れを減らすという目標が達成できました。実際に現場担当者から、電話中断が減った、問診票の記入漏れが減ったという声を頂きました。今後も患者さんを速やかに診療科へご案内できるよう、引き続き対策案を実施して参りますので、ご協力をよろしくお願いいたします。</p>		
	活動主体部署	無痛分娩プロジェクト
	テーマ	無痛分娩の要望に応え、安全に対応する仕組みを構築する
	チームリーダー	吉成 慶子
<p>自然なお産を目標に掲げていたため、無痛分娩開始に葛藤していた時期もありましたが、今ではさらに強みを持ってと思っています。未経験者が多い中、様々な部署の協力もあり無事にスタートする事ができ、感謝しております。ここで産んでよかったと思われる病院であり続けるよう、今後も助産ケア向上に努めます。</p>		

審査員より各チームへひとこと（一部抜粋）

	良かった点	今後の課題と思われる点・ご意見・ご感想 など
①看護部 『夜間、震度5以上の地震発生時、職員が安全に初期対応を行うことが出来る』	<p>病院全体の課題について、患者さん目線に最も近い看護師さんが中心となって取り組んでくださったことの意義は大きいと思います。以前の役職者研修で作成し活用されていなかったアクションカードを取り上げて、現状に合わせて改訂し、実践を想定した訓練まで実施できたことは大変意義のある活動でした。</p> <p>組織にとって重要度が非常に高いにもかかわらず緊急性が低いため後回しになりがちなテーマを選択いただいたのは非常に意味のあることだったと思います。</p> <p>防災対策という大きな仕組みに対し、現場の現実的問題点を取り上げ、喫緊課題として夜間にテーマを絞り込み解決策を講じ、更なる展開の可能性を感じさせた丁寧な活動と感じました。</p>	<p>アクションカードの認知度はまだ低いので、今後継続してください。アクションカードが周知徹底されなかった理由についても考察し、歯止め・標準化に生かせるとうと思います。</p> <p>本プロジェクトを防災委員会に確実に連結し、全院的に拡大させること、継続的な見直し、職員教育が重要だと思います。防災委員会への確実な引継ぎをお願いします。</p> <p>効果・確認が分かりにくかった。実施した人数が多ければ効果確認で提示できたと思います。</p> <p>新しくきたアクションカードが継続できることを期待します。</p> <p>アクションカードをどのような点をどのように改善したのか、という点が見えにくかったです。</p> <p>取組みの価値が「訓練の実施」のところに集約されたように感じます。</p>
②放射線科 『画像データ出力の運用を見直す』	<p>日常の問題の解決策を模索する中でアプリの活用法をみだし業務改善につなげた。</p> <p>毎日の業務の中で関係職員の誰もが「手間」だと考えていた問題をMQIという機会を使って改善できたことはたいへん意味のある活動でした。</p> <p>人手不足が進む中で、業務の効率化、DX化が叫ばれている中、モデルとなる取り組みだったと思います。作業工数的にも時間的にも見える形で成果を挙げた点は素晴らしいと思います。多くの方の方のご実現可能な形で解決して、シンプルで素晴らしい取り組みだと思います。</p> <p>今まで、日常業務の中に潜んでいる非効率性に着目し分かりやすい手順で取組み成果を得た。このような視点を持ち続ければ、今後いくらかでもMQI活動のテーマが見つけれられるのではと思った。</p>	<p>今回の取り組みの延長として、全職種で提案を募集し病院として取り入れる仕組みを考えてみては？</p> <p>他にもITを利用した業務改善を期待する。</p> <p>データ出力履歴が残る形になるとよいと思います。</p> <p>電子カルテ上の運用を効率化する業務改善について、提案いただけると良いと思います。</p> <p>院内で漫然と続けている非効率な業務も、手順を踏んで必要性を示して責任を持って運用すれば改善できるというモデルケースになったのではなかいかと考えます。</p> <p>システム改修などの作業が必要だったがコストがどの程度かかったのかわりたかった。</p> <p>今後の課題にも取り上げられていたが、システム化することによりシステムが使用できなくなった時の対策は全病的に常に必要なことを改めて認識させてくれた。</p>
③薬剤科 『多職種で関わるFLSの体制を整える』	<p>算定できない要因を究明して、すべての達成目標ほぼ100%達成し成果につなげた。</p> <p>2次骨折予防という意義あるテーマで、患者さんはもちろん、病院にもメリットのある取り組みだと思います。</p> <p>病院全体に骨折予防の啓蒙を行われた点が良いと思います。診療報酬改定をきっかけに発足したFLSチームですが、臨床上、真に意味のある多職種でのチーム活動ができる体制が整備できたと考えます。</p> <p>患者さんの利益に直結する重要なテーマに取り組んでいただいたと思います。取組結果も明確で、素晴らしい成果を上げられたと思います。全体を通して、わかりやすく内容がまとめられており、専門的知識がなくても理解しやすかった発表でした。</p> <p>「外来で算定率が上がった」という成果が、まずは素晴らしい点だと思います。</p> <p>多職種連携は重要と言われながら、現実的には機能していないケースが多い。これを機能させ成果を得た。</p>	<p>今後、FLSチームメンバーも入れ替わるとは思いますが、今回の成果、レベルを保ち、さらに患者さんの二次性骨折予防につながる活動に発展させてください。</p> <p>今後の課題として挙げられているFLSの更なる発展に期待したいと思います。二次骨折予防は、社会全体の問題として認識され、診療報酬として新設された算定項目ですので、介入効果が目に見える形で示すことができれば素晴らしいと思います。</p> <p>今後の課題にあった転院先との連携は、とても重要なことだと思いますので、活動の発展を期待しています。</p> <p>課題が多く挙がっているので[問題-解決策-評価]の関係が少しぼやけてしまったかもしれません。</p> <p>一般的には外来は難しいですが、効果が出ています。</p> <p>FLSの目的二次骨折を防ぐという目的に対して結果は得られたのか、算定率の向上という成果は素晴らしいと思うが医療の質向上にどう関連するのか説明が欲しかった。</p>
④医事課 『受付業務を整理し、初診患者を速やかに診療科へ案内する』	<p>患者さん目線で問診票記載不備が多い問題点を解決できたと考えます。</p> <p>外来混雑時間の受付業務の改善には医事課内での協力を得ることができ、今後の問題解決にもつながる取組でした。</p> <p>医療機関の待ち時間は全国の病院で課題として挙がっている難しいテーマですが、意欲的に取り組んでいただいたと思います。現状把握をしっかりとされて、プロジェクトをスタートされたことが素晴らしいと思います。</p> <p>問診票のミクロな改訂はとても理に通っていて、有意義だと思いました。</p> <p>「混雑時間帯の電話問い合わせの分散」など患者等にも協力を呼び掛ける実施対策は、MQI活動が職員だけではなく患者・家族をも巻き込んだ広がりを持つものであると再認識した。</p>	<p>患者さんを案内する時間は短くなっていないので今後も検討をお願いします。</p> <p>現状把握で詳細なデータを取っていましたが、問題点の絞り込みや対策立案に活かして切れていなかったかもしれません。</p> <p>全体としての時間短縮に至らなかった原因には、対策時期と効果確認のタイミングが影響しているのではないかと考えます。継続して、さらに受付業務の改善につなげてください。</p> <p>診療予約などの対応については病院での対応を考える必要性をあらためて理解しました。難しいテーマですが、今後もよろしくお願い致します。</p> <p>時間の長さは客観的な数値とともに、患者さんの心理的側面も大きいので、心理的観点からの取り組みも検討されたいと思います。</p> <p>混雑時間帯の電話問い合わせの分散結果についての報告がなかったが結果はどうであったのか気になった。</p>
⑤無痛分娩プロジェクト 『無痛分娩の要望に応え、安全に対応する仕組みを構築する』	<p>新規プロジェクトを当院の実情にあわせて、どのレベルから無痛分娩を開始するかは議論があったが、話し合いで調整して実行した強みを生かし、患者さん・地域・病院双方にメリットのある素晴らしい取り組みだと思います。</p> <p>難しい課題ですが、当院が地域に提供できる医療の段階を確実に上げる内容であり、地域からの期待も大きいものであると思います。</p> <p>無痛分娩という新規医療技術の導入をスタッフ全員で推進し、安全に実施していることは素晴らしいと思います。エンゲージメント高まりますね!!</p> <p>当院のお産の目標に沿った取り組みを実現すべくSWOTクロス分析、BSCを用いた、今まであまり使用されなかった手法を取り入れ多面的な視点でプロジェクトを進めた。</p>	<p>運用が安定したら少しずつ拡張してください。</p> <p>苦労した点や工夫した点を共有いただき、今後同様の新規プロジェクトへ生かせるようにしていただきたいと思います。</p> <p>パイロットプロジェクトで得られた内容を確実に活かして、公式的に開始できるように、質の向上、対応できる職員の拡大に努めていただければと思います。</p> <p>麻酔科管理下での無痛分娩であることは、もっとアピールポイントになると思います。</p> <p>無痛分娩に取り組む背景について、現在の分娩件数、想定される無痛分娩件数などデータをを用いて説明があればわかりやすかった。</p>

★審査員紹介★

長時間にわたる審査をありがとうございました！



【審査員長】
東宏一郎
副院長
MQI推進委員



【審査員】
金内幸子
MQI推進委員会
副委員長



【審査員】
栗原直人
副院長



【審査員】
阿部哲晴
事務長



【審査員】
福本和美
副看護部長



【審査員】
平林慶史様
有限会社
ノトコード
代表取締役



【審査員】
関利一様
株式会社日立製作所
ひたちなか総合病院
TQM統括室経営支援センター長



【審査員】
横孝悦様
株式会社
横コンサルタントオフィス
代表取締役

会場の様子



第1部座長
松田英士
(内科)



第2部座長
大澤竜太
(リハビリテーション科)



総会司会
小宮山海渡
(検査科)

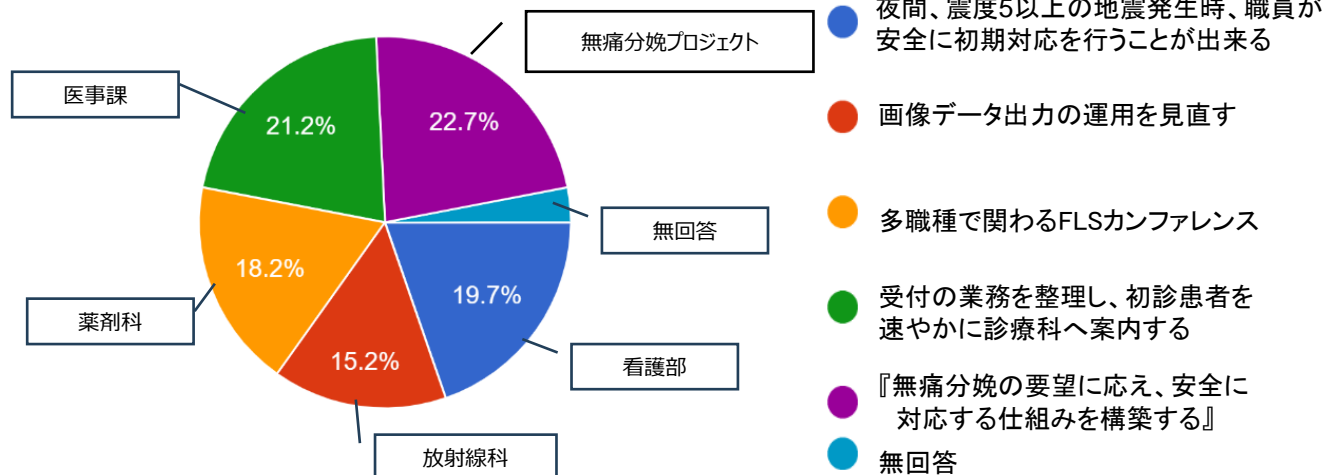


MQI推進委員



MQI 発表大会アンケート集計結果 (回答数77名)

よかったと思うチーム



MQI発表大会に参加しての感想 (一部抜粋)

【当院以外】

- ・どの演題も興味深く楽しかった。
- ・当院はQI活動として、14部署が毎年発表している。当方は審査員であり着眼点など参考になりました。
- ・毎年招待していただき、ありがたく思っており勉強させて頂いております。

【当院職員】

- ・今回の活動で新しい知識を色々身に付けられました。例えば当院にはアクションカードがもともとあったか無痛分娩は計画分娩とセットなんだとか。病院の内情をよく知ることが出来たので大変有意義な時間を過ごせました。
- ・会場参加したが後ろの方にいたので音声が届かなくて聞きにくい部分もあり、後方モニターはまともに作動していなかったのでZOOM参加でもよかった。
- ・院外からの講演がとても良かった。今日参加しなかった職員もCoMedixで見れたら良いと思います。
- ・活動の趣旨はとても素敵だとは思いますが、この活動によって残業がかさんだり重荷を感じたりしてしまうのでは医療の質向上以前の問題です。現場の実情が見えていない。

今後MQI活動を継続的に実施していくために必要な配慮や工夫 (一部抜粋)

【当院以外】

- ・当院は今年で20回目の活動実施中ですが、先駆者として継続を期待します。

【当院職員】

- ・業務の一環として業務時間内にして欲しいです。カイロは使っていない職員が多かったように思うのでその分をお茶の配布やQUOカードに反映して欲しいです。
- ・現状把握でデータを出すことが活動してからではとても大変なので、普段から病院として各科可視化できるデータがある、把握しておく。そのデータを見て活動を促がして行くと取り組みやすい。
- ・リーダーの負担が大きすぎる。
- ・参加者にも投票権をお願いします。審査員票と格差はあっていいと思います。
- ・言い出した人が全部やるのではなくチームとして活動してもらうために、例えば報告会は都度別の人が発表するなど、第三者からチーム内の人に積極的に関わってもらうように促すと活動する側はやりやすいと思います。
- ・MQIもメンバー参加も初めてで、定期報告の場は緊張感ありすぎて質疑も厳しいもので怖かった。真剣に取り組む場というのはわかるが萎縮してしまう答えられないチームがでるのも解る。各自忙しい業務の間に行うので考慮してほしい。
- ・来賓の方々とはもかくとして会場参加した職員に対してQUOカードを配布する必要はないと思います。

<編集後記>

今年も現地とZOOMのハイブリッド開催としました。ZOOMはマイナートラブルがありましたが、特に大きな問題はなくハイブリッド開催は概ね好評でした。平林先生の特別講演での、「根拠を基にした改善案などを求めるだけでなく、何かおかしい、なんとなくいいかもしれないなど、専門家としての主観を大切に」などの言葉は、私たち推進委員にとっても「業務改善の原点はそこにある」など、改めて気づかされるものがたくさんありましたし、職員にも非常に好評でした。日常業務での、ふとした気づきなど医療の専門家としての勘を基に、来年の活動テーマの選出をしてみてください。